

## 平成30年度 鳥取県音楽教育研究連絡協議会夏期研修会実施レポート

- 1、日 時 平成30年8月17日（金） 9：30～15：30
- 2、会 場 境港市立第二中学校  
鳥取県境港市竹内町2438 （0859）-45-0911
- 3、主 催 鳥取県音楽教育研究連絡協議会  
（平成30年度鳥取県教育センターアドバイザー派遣事業）
- 4、内 容 講義・演習  
「豊かな感性を育む音楽科授業づくり」～日本音楽の魅力を通して～
- 講師 玉川大学芸術学部 教授 清水宏美 先生

### ○講義Ⅰ 和太鼓を使った器楽・創作の授業づくり

- ・日本音楽で学び取らせたいこと
- ・短時間で習熟させるための工夫
- ・発問とワークシートの工夫
- ・創作における指導と評価

### ○講義Ⅱ 三味線を用いた器楽・歌唱（民謡）の授業

- ・三味線の基礎と生徒を惹きつける工夫
- ・民謡の伴奏から歌唱の充実へ

本研修では昨年に引き続き清水教授をお招きしたことから、東京都中教研音楽部会研究部長として重ねてこられた様々な授業研究や実践とともに、現在の音楽教育の動向や研究についても学ぶことができた。本県の音楽科教員にとって課題である「創作」や「日本音楽」について三味線や、和太鼓を用いて演習をおこない、授業をつくる上で大変参考になった。模擬授業の中で日本音楽や和楽器の持つ魅力を再発見し、評価方法や楽器の維持管理、3年間の系統性や既習事項とのつながり、授業研究や若手教員の育成方法などについても学ぶことができ、本県の音楽教員が授業力を高める上で有意義な研修となった。

### 講義感想

清水教授の授業では、音色・間・序破急・静寂などといった日本音楽の持つ魅力が器楽、創作、鑑賞のどの分野でも1つの軸や流れとなっており、工夫されたワークシート、計算された発問や授業展開とともに生徒を引き込む指導案であることが模範授業を通して実感することができた。

実際の生徒がつくった作品やワークシートを見させていただき、授業でねらいとするものや、期待する生徒の姿が分かりやすかった。

限られた時間の中での技能テストや評価についても学ぶことができ、長年中学校教師として実践してこられた清水教授の授業を生徒の立場で体験させてもらったことを、これからの授業や指導に活かしていきたい。